

2017年度 第3四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2018年1月31日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

富士フイルムホールディングス株式会社 2017年度第3四半期決算について、説明させていただきます。

2017年度第3四半期 業績 (2017年4月~12月)

(単位: 億円)

	2016年度 9ヶ月累計	2017年度 9ヶ月累計	対2016年度 9ヶ月累計	為替影響	為替影響除く
売上高	16,923 100.0%	18,097 100.0%	1,174 +6.9%	548	626 +3.7%
一時費用除く 営業利益	1,224 7.2%	1,413 7.8%	189 +15.4%	127	62 +5.1%
構造改革費用等 一時費用	41	* 127	86	0	86
営業利益	1,183 7.0%	1,286 7.1%	103 +8.7%	127	-24 -2.0%
税金等調整前 四半期純利益	1,305 7.7%	1,745 9.6%	440 +33.7%	112	328 +25.1%
当社株主帰属 四半期純利益	787 4.7%	1,245 6.9%	458 +58.1%	78	380 +48.2%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	176.57円	284.49円	107.92円	＜その他増減要因(対前年度)＞ 営業利益 原材料: -53億円	
為替 : 米ドル	107円	112円	5円安		
: ユーロ	118円	129円	11円安		

*一時費用金額内訳: 上期 79億円、3Q 48億円

2

2017年度第3四半期の売上高は、電子映像事業、メディカルシステム事業、電子材料事業などで売上を伸ばし、前年比6.9%増の1兆8,097億円となりました。

営業利益は、各事業において収益性改善を進めたことにより前年比8.7%増の1,286億円となりました。

尚、2017年度9ヶ月累計でドキュメント事業における構造改革費用を含む一時費用127億円が発生しており、これらの影響を除いたオペレーションベースでは対前年15.4%増の1,413億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、和光純薬工業の連結子会社化による和光株式の評価益、また、資産効率向上のための政策保有株式売却益などの計上により、前年比33.7%増の1,745億円、当社株主帰属四半期純利益は、前年比58.1%増の1,245億円と大幅増益となりました。

セグメント別 連結売上高/営業利益

(単位: 億円)

売上高	9ヶ月		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2016年度	2017年度			
イメージング	2,575	2,977	402 (+15.6%)	144	258 (+10.0%)
ヘルスケア	2,606	3,091	485 (+18.6%)	89	396 (+15.2%)
インフォメーション	6,424	7,283	859 (+13.4%)	215	644 (+10.0%)
ドキュメント	7,924	7,837	-87 (-1.1%)	189	-276 (-3.5%)
合計	16,923	18,097	1,174 (+6.9%)	548	626 (+3.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	9ヶ月		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2016年度	2017年度			
イメージング	284	500	216 (+76.1%)	61	155 (+54.6%)
ヘルスケア	14	74	60 (5.0倍)	30	30 (3.0倍)
インフォメーション	557	612	55 (+9.8%)	60	-5 (-1.0%)
ドキュメント	566	405	-161 (-28.5%)	7	-168 (-29.7%)
本社/連結調整	-224	-231	-7	-1	-6
合計	1,183	1,286	103 (+8.7%)	127	-24 (-2.0%)

続いて、セグメント別の状況について説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比15.6%増の2,977億円、
営業利益は、前年比76.1%増の500億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、
前年比13.4%増の7,283億円
営業利益は、前年比9.8%増の612億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門のうち、ヘルスケアの売上高は
前年比18.6%増の3,091億円、
営業利益は、対前年5.0倍の74億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比1.1%減の7,837億円、
営業利益は前年比28.5%減の405億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
2,977	402 (+15.6%)	500	216 (+76.1%)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。「WALL DECOR」「フォトブック」などの付加価値プリントビジネスも堅調。
- ・ 電子映像では、「FUJIFILM X-E3」や「FUJIFILM X-T20」を中心としたXシリーズ、大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」および交換レンズの販売が好調で、対前年40.3%増の大幅増収。
- ・ 光学デバイスでは、各種産業用レンズやシネマカメラ用レンズ「MKレンズ」シリーズの販売が好調に推移し、売上が増加。収益性が大きく改善。

電子映像事業の売上が大幅に増加
各事業も好調に推移し、増収大幅増益

まずイメージング ソリューション部門について説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移しました。また、11月にはスクエアフォーマットを採用したスマートフォン用プリンター「instax SHARE SP-3」を発売。新たな楽しみ方を提案することでスマートフォンユーザーのプリント需要を開拓していきます。さらに、「WALL DECOR」「フォトブック」などの付加価値プリントビジネスも堅調に推移しました。

電子映像では、「FUJIFILM X-E3」や「FUJIFILM X-T20」を中心としたXシリーズ、大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」および交換レンズの販売が好調に推移し、対前年40.3%増の大幅増収となりました。人々の記憶に残る鮮やかな色を再現する独自技術による圧倒的な描写力や、31種と幅広いレンズのラインアップがプロ写真家や写真愛好家から高く評価されています。

光学デバイスでは、車載用やプロジェクター用などの各種産業用レンズや市場が拡大しているWeb映像などの動画撮影向け新シリーズであるシネマカメラ用レンズ「MKレンズ」シリーズの販売が好調に推移し、売上が増加。営業利益においても収益性が大きく改善しています。

イメージング ソリューション部門は、電子映像事業が大幅に売上を伸ばしたほか、各事業の販売が好調に推移し、対前年増収大幅増益となりました。

セグメント別 概況

■インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
7,283	859 (+13.4%)	612	55 (+9.8%)

- ヘルスケアで、メディカルシステムは、体外診断(IVD)システム、内視鏡を始めとしたすべての分野で販売が好調に推移。バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移。医薬品は、FF-10832の臨床第I相試験を米国で実施することを決定するなどパイプラインの開発を着実に推進。再生医療は、「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング」の販売が好調に推移、売上に貢献。
- 高機能材料で、ディスプレイ材料は、在庫調整などの影響でタック製品の販売は減少したが、有機EL関連などの新規分野での販売が伸長し、売上はほぼ横ばい。産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は先端フォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。ファインケミカル事業では、重合開始材等の高機能化成品の売上が伸長。
- 記録メディアは、大容量データストレージ用磁気テープの在庫調整などの影響で売上が減少。
- グラフィックシステムは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少。インクジェットデジタルプレス分野において、富士フイルムと富士ゼロックスにおける国内販売体制の再編などの強化をすすめ、デジタル化が進む印刷市場において、最適な製品・ソリューションを提案していく。インクジェット事業はインクおよび産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調に推移。

メディカルシステム事業・電子材料事業などでの販売好調に加え
各事業の収益性向上により増収増益

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムは、成長分野である体外診断(IVD)システム、内視鏡を始めとしたすべての分野で販売が好調に推移しました。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移しました。さらなる事業拡大に向け、昨年9月に英国拠点においてバイオ医薬品の生産プロセス開発の新拠点を開設、本年1月に米国拠点の新生産棟の稼働を開始しています。また、昨年11月には米国・英国両拠点にプロセス開発・生産設備への追加投資を決定しました。

医薬品は、進行性の固形がんを適応症とする抗がん剤「ゲムシタビン」をリポソームに内包したリポソーム製剤FF-10832の臨床第I相試験を、本年中に米国で開始することを決定するなど、パイプラインの開発を着実に推進しています。

再生医療は、「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング」の販売が好調に推移、売上に貢献しました。

ライフサイエンスは、美白化粧水「アスタリフト ホワイト ブライトローション」や、機能性表示食品「メタバリアS」などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

高機能材料のうち、ディスプレイ材料は、第2四半期における在庫調整などの影響でタック製品の販売は減少しましたが、有機EL関連などの新規分野での販売が伸長し、9カ月累計での売上はほぼ横ばいとなりました。

産業機材は、「エクスクリア」や「プレスケール」の販売が好調に推移しました。

電子材料は、先端フォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加しました。半導体市場が拡大する中、幅広い製品ラインアップで市場成長率を上回る高い成長を実現しています。

ファインケミカルは、日用品などに使用される高吸水性樹脂の原料となる重合開始材などの高機能化成品の売上が伸長しました。

記録メディアは、大容量データストレージ用磁気テープの在庫調整などの影響で売上が減少しました。

グラフィックシステムでは、製版・刷版材料の総需要減により売上は減少しました。インクジェットデジタルプレス分野において、北米地域ではゼロックスコーポレーションとの販売協業、欧州ではハイデルベルク社との共同開発を強化するとともに、国内では富士フイルムと富士ゼロックスの販売機能の統合をすすめており、デジタル化が進む印刷市場において、最適な製品・ソリューションを提案していきます。

インクジェットは、インクおよび産業用インクジェットヘッドなどの販売が堅調に推移しました。これまで注力してきた分野に加え、テキスタイルなど新たな領域へ独自の製品を展開し、事業を拡大していきます。

インフォメーション ソリューション部門は、メディカルシステム事業や電子材料事業などで売り上げを伸ばしたことに加え、各事業の収益性向上により増収増益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
7,837	-87 (-1.1%)	405	-161 (-28.5%)

(単位：億円)

- ・ オフィスプロダクト&プリンター事業のうち、オフィスプロダクト分野は、日本やオセアニア地域で販売が減少したが、中国での販売や欧米向け輸出における新製品が好調に推移し、全体では前年並み。オフィスプリンター分野では、低採算のプリンタービジネスの縮小により、販売台数が減少。
- ・ プロダクションサービス事業では、昨年好調だった基幹業務出力向けプリンターや、欧米向けの販売台数が減少し、全体の販売台数は減少。11月に販売を開始した高速・高画質のプロダクションカラー機（Iridesse™ Production Press）の販売は好調に推移。
- ・ ソリューション&サービス事業は、オセアニア地域で昨年の大型商談の反動などで売上が減少したが、国内の業種・業務別ソリューションが堅調に推移し、全体の売上は増加。

低採算のプリンタービジネスの縮小および
オセアニア地域での販売減少により減収
オセアニア地域での販売減や一時費用の影響により減益

6

最後に、ドキュメント ソリューション部門について説明します。

オフィスプロダクト・プリンター事業のオフィスプロダクト分野では、国内やオセアニア地域で複合機の販売台数が減少したものの、中国や欧米向け輸出で販売が好調に推移し、全体の販売台数は前年並みとなりました。オフィスプリンター分野では、日本およびアジア・オセアニア地域で低採算のプリンタービジネスの縮小により台数、売上が減少しましたが、欧米向け輸出は、新製品を中心に、カラープリンターの販売台数、売上が好調に推移しました。

プロダクションサービス事業は、欧米向け輸出の販売台数は減少しましたが、中国での販売は引き続き好調に推移しました。

また、昨年11月に販売を開始した、金、銀、クリアトナーなどを搭載し、カタログやマニュアル、販促印刷物など多彩なカラー出力ニーズに応える「Iridesse Production Press」の販売は好調に推移しました。

ソリューション・サービス事業は、アジア・オセアニア地域で売上が減少しましたが、国内で、業種・業務別ソリューションの販売が堅調に推移し、全体の売上は増加しました。

ドキュメントソリューション部門は、売上高は低採算のプリンタービジネスの縮小やオセアニア地域での販売減少により減収しました。営業利益は、為替のマイナス影響や第2四半期での貸倒引当金の追加計上、第3四半期での構造改革費用を含む一時費用の影響により、減益となりました。引き続き、ソリューション・サービスなどの成長領域の拡大や、オセアニア地域での販売回復に努めるとともに、経費削減および原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

					(単位: 億円)				
	15年度末	16年度末	17年 12月末	対16年度末		15年度末	16年度末	17年 12月末	対16年度末
現金 及び現金同等物	6,009	8,760	6,522	-2,238	長短社債 及び借入金	3,657	5,588	4,707	-881
受取債権	6,436	6,358	6,306	-52	支払債務	2,571	2,579	2,420	-159
棚卸資産	3,492	3,392	3,994	602	その他流動 固定負債	4,572	4,484	4,124	-360
その他流動資産	1,726	1,838	1,339	-499	負債計	10,800	12,651	11,251	-1,400
流動資産計	17,663	20,348	18,161	-2,187	株主資本計	20,148	20,436	21,739	1,303
有形固定資産	5,326	5,206	5,471	265	非支配持分	2,172	2,245	2,316	71
営業権	5,069	4,998	6,035	1,037	純資産計	22,320	22,681	24,055	1,374
投資有価証券 その他資産	5,062	4,780	5,639	859	負債・純資産 合計	33,120	35,332	35,306	-26
固定資産計	15,457	14,984	17,145	2,161	(単位: 円)				
資産合計	33,120	35,332	35,306	-26	期末日 為替レート	15年度末	16年度末	17年 12月末	対16年度末
					米ドル	113	112	113	1円安
					ユーロ	128	120	135	15円安

次に、バランスシートについて説明します。

2017年12月末時点の資産合計は、

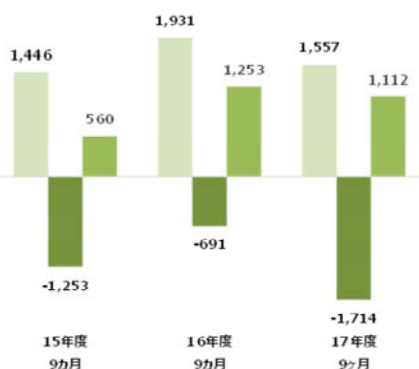
現金および現金同等物の減少などにより、2017年3月末時点と比べ、26億円減の3兆5,306億円となりました。

負債は1,400億円減の1兆1,251億円、株主資本は1,303億円増の2兆1,739億円となりました。

流動比率は、28.8ポイント増の328.0%、負債比率は10.1ポイント減の51.8%、株主資本比率は3.8ポイント増の61.6%となりました。

キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ フリー・キャッシュ・フロー (事業買収除く)
 (単位: 億円)



	(単位: 億円)		
	15年度 9か月	16年度 9か月	17年度 9ヶ月
四半期純利益	925	896	1,339
減価償却費	907	896	953
受取債権の増(-)減(+)	268	364	478
棚卸資産の増(-)減(+)	-271	-175	-351
営業債務の増(+)-減(-)	7	-90	-306
その他	-390	40	-556
営業活動によるCF	1,446	1,931	1,557
設備投資	-462	-555	-484
ソフトウェアの購入	-177	-154	-124
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	99	272	231
事業買収	-367	-13	-1,269
その他	-346	-241	-68
投資活動によるCF	-1,253	-691	-1,714
フリー・キャッシュ・フロー	193	1,240	-157
事業買収除くフリー・キャッシュ・フロー	560	1,253	1,112

続いて、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益に加えて受取債権の減少などにより、1,557億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、和光純薬工業の事業買収などにより、1,714億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローはマイナス157億円となりました。

以上、2017年度第3四半期決算について説明いたしました。

2017年度第3四半期 決算説明会

富士ゼロックスにおける構造改革および 通期業績予想

次に、当社子会社の富士ゼロックスにおける構造改革と通期業績予想について説明します。

富士ゼロックスにおける構造改革

■ 構造改革の狙い:

- ・ 今後の競争を勝ち抜き、事業成長を力強く確実なものとするため、抜本的な構造改革により収益・生産性を改善し、強靱な企業体質へ変革
- ・ ゼロックスコーポレーションとの経営統合を見据え、富士ゼロックスの構造改革を完遂することで、強力なシナジーを実現

■ 具体的な施策:

- ・ 国内外の営業体制再編
- ・ 事業採算改善に向けた製品構成の見直し
- ・ 固定資産の圧縮
- ・ 生産拠点の統廃合と開発体制の再編
- ・ 本社機能の統廃合とシェアード化拡大

国内外10,000人の人員削減を含む構造改革の実施
2019年度以降、500億円/年のコスト削減効果
新たな成長領域における事業基盤の確立

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 以降
構造改革費用等	490億円	170億円	60億円	-
効果	-	250億円	500億円	500億円

10

ドキュメント分野を取り巻く市場環境が厳しさを増す中、今後の競争を勝ち抜き、事業成長を力強く確実なものとするため、抜本的な構造改革を実施し、収益・生産性を改善、並びに強靱な体質へと変革を果たします。

また、ゼロックスコーポレーションとの経営統合を見据えた富士ゼロックスの構造改革を完遂し、強力なシナジーの実現を目指します。

具体的には、本構造改革において、国内外の営業体制再編、生産拠点の統廃合と開発体制の再編、事業採算の改善に向けた製品構成の見直し、本社機能の統廃合とシェアード化の拡大、固定資産の圧縮などの施策を実施していきます。

国内外あわせて10,000人の人員削減を含む構造改革の実施によるコスト削減効果は、2019年度以降、年間500億円を見込んでいます。また、構造改革費用等で、2017年度から3年間で720億円の一時費用が発生する見込みです。

2017年度 連結業績予想 (2018年1月31日時点)

(単位: 億円)

	2016年度	2017年度 (前回予想)	2017年度	対前回予想	対前年度
売上高	23,222 100%	24,600 100%	24,600 100%	0 0.0%	1,378 +5.9%
営業利益	1,723 7.4%	1,850 7.5%	1,300 5.3%	-550 -29.7%	-423 -24.5%
税金等調整前 当期純利益	1,948 8.4%	2,000 8.1%	2,000 8.1%	0 0.0%	52 +2.7%
当社株主帰属 当期純利益	1,315 5.7%	1,250 5.1%	1,400 5.7%	150 +12.0%	85 +6.5%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	296.27円	285.55円	322.16円	36.61円	25.89円
ROE	6.5%	6.0%以上	6.7%	-	+0.2%
為替 : 米ドル	108円	110円	111円	1円安	3円安
: ユーロ	119円	123円	129円	6円安	10円安
銀価格 (/kg)	59,000円	62,000円	61,000円	-1,000円	2,000円

一時費用 控除前 営業利益	1,870
上期 一時費用	80
下期 構造改革費用等 一時費用	490
営業利益	1,300

* 2017年度 営業利益 為替感応度 米ドル: 8億円, ユーロ: 8億円
* 第4四半期の為替レートは 米ドル: 110円, ユーロ: 130円を想定しております。

2017年度通期の連結業績予想について説明します。

売上高は、前回予想から変更なく前年比5.9%増の2兆4,600億円と増収を確保します。

営業利益は、2017年度下期において、富士ゼロックスにおける構造改革に伴う費用等で、ドキュメントソリューションに490億円の一時費用の計上が見込まれます。また、インフォメーションソリューションとドキュメントソリューションの足元の業績に鑑み、前年比24.5%減の1,300億円に下方修正をいたします。ドキュメントソリューションで、2017年度上期に、市場対策費や貸倒引当金などの一時費用が約80億円が計上されましたが、これらの一時費用を除くと、今年度のオペレーションベースの営業利益予想は、1,870億円となります。

一方で、資産の効率化のために政策保有株式の売却を進めていることで、下期に約490億円の投資有価証券売却益の計上が見込まれることなどにより、税金等調整前四半期純利益は、前年比2.7%増の2,000億円に据え置きます。

当社株主帰属四半期純利益は、非支配持分帰属損益の控除金額が減少することなどにより、前年比6.5%増の1,400億円に上方修正いたします。

尚、当社株主帰属当期純利益は、富士フィルムホールディングスとして過去最高益となる見通しです。

ゼロックスコーポレーション株式取得と、富士ゼロックスとゼロックスコーポレーションの経営統合に関わる、2017年度の通期連結業績への金額影響はありません。

以上、富士ゼロックスにおける構造改革および通期業績予想修正について説明いたしました。

2017年度第3四半期 決算説明会

ガバナンス強化の取り組みについて

12

最後に、コーポレートガバナンス強化の取り組みについて、進捗状況を説明します。

ガバナンス強化の取り組み：進捗状況

**コーポレートガバナンス強化の取り組みは、
各強化施策を5つの強化プロジェクトにおいて継続運用中**

**具体的な強化施策を取り纏めた「改善報告書」を
2017年12月に公表**

**今後もガバナンス強化委員会にて
継続的に運用状況を確認**

13

コーポレートガバナンス強化の取り組みについては、グループ会社管理強化/経理強化/監査強化/コンプライアンス強化/ITガバナンス強化の5つのプロジェクトにて、10月31日の第2四半期決算説明会でお伝えした各強化施策を継続運用しています。

また、各強化施策の具体的な内容とその進捗状況などを「改善報告書」として取り纏め、2017年12月11日に東京証券取引所に提出しました。

今後も、ガバナンス強化委員会の下、継続的にその運用状況を確認するとともに、各強化施策を確実に推進していきます。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

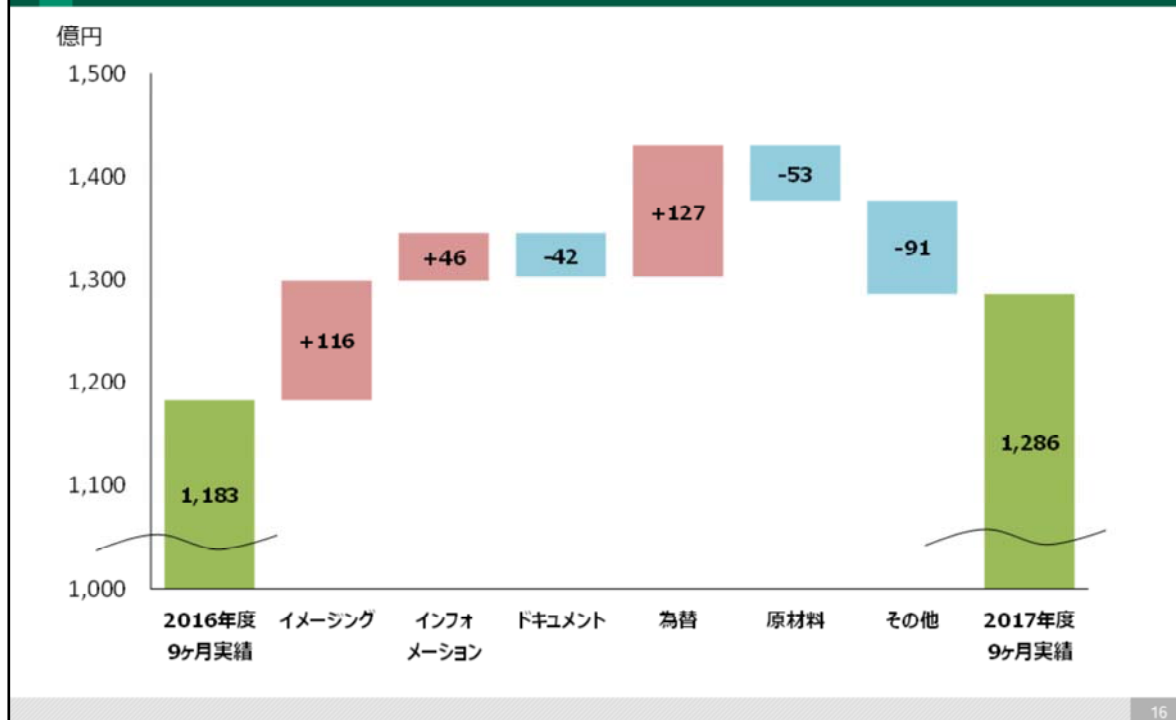
富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2017年度第3四半期 決算説明会

参考資料

営業利益増減分析(対前年9ヶ月累計実績)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

(単位: 億円)

	2016年度3Q	2017年度3Q	対2016年度3Q	2016年度 9ヶ月累計	2017年度 9ヶ月累計	対2016年度 9ヶ月累計
売上高	5,787 100.0%	6,218 100.0%	431 +7.4%	16,923 100.0%	18,097 100.0%	1,174 +6.9%
一時費用除く 営業利益	509 8.8%	575 9.2%	66 +13.0%	1,224 7.2%	1,413 7.8%	189 +15.4%
構造改革費用等 一時費用	0	48	48	41	127	86
営業利益	509 8.8%	527 8.5%	18 +3.4%	1,183 7.0%	1,286 7.1%	103 +8.7%
税金等調整前 四半期純利益	661 11.4%	743 12.0%	82 +12.4%	1,305 7.7%	1,745 9.6%	440 +33.7%
当社株主帰属 四半期純利益	443 7.7%	536 8.6%	93 +20.9%	787 4.7%	1,245 6.9%	458 +58.1%
為替 : 米ドル	110円	113円	3円安	107円	112円	5円安
: ユーロ	118円	133円	15円安	118円	129円	11円安

<その他増減要因 (3Q/9ヶ月 対前年度) > 営業利益 原材料: -25億円 / -53億円

17

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

(単位：億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2016年度	2017年度	対前年度	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	1,032	1,229	197 (+19.1%)	2,575	2,977	402 (+15.6%)
ヘルスケア	901	1,083	182 (+20.4%)	2,606	3,091	485 (+18.6%)
インフォメーション	2,204	2,475	271 (+12.3%)	6,424	7,283	859 (+13.4%)
ドキュメント	2,551	2,514	-37 (-1.4%)	7,924	7,837	-87 (-1.1%)
合計	5,787	6,218	431 (+7.4%)	16,923	18,097	1,174 (+6.9%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2016年度	2017年度	対前年度	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	192 [18.5%]	261 [21.3%]	69 (+36.1%)	284 [11.1%]	500 [16.8%]	216 (+76.1%)
ヘルスケア	10 [1.2%]	55 [5.1%]	45 (5.1倍)	14 [0.6%]	74 [2.4%]	60 (5.0倍)
インフォメーション	230 [10.5%]	232 [9.4%]	2 (+0.8%)	557 [8.7%]	612 [8.4%]	55 (+9.8%)
ドキュメント	161 [6.3%]	114 [4.5%]	-47 (-29.4%)	566 [7.1%]	405 [5.2%]	-161 (-28.5%)
全社/連結調整	-74	-80	-6	-224	-231	-7
合計	509 [8.8%]	527 [8.5%]	18 (+3.4%)	1,183 [7.0%]	1,286 [7.1%]	103 (+8.7%)

18

<当スライドは配付資料です>

3Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

イメージングソリューション

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ「チェキ」とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。
- ・ 電子映像では、昨年9月発売の「FUJIFILM X-E3」などのXシリーズや大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」および交換レンズの販売が好調。

インフォメーションソリューション

- ・ ヘルスケアで、メディカルシステムは、体外診断(IVD)システム、内視鏡を始めとしたすべての分野で販売が好調に推移。バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移。医薬品は、昨年12月に創薬ベンチャーエディジーン株式会社への出資および遺伝子治療薬の探索を目的とした共同研究契約を締結。
- ・ 高機能材料で、ディスプレイ材料は、有機EL関連などの新規分野での販売が好調に推移。産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は先端フォトリソ周辺材料の販売が好調に推移し、売上が増加。

ドキュメントソリューション

- ・ 売上高は、低採算のプリンタービジネスの縮小やオセアニア地域での販売減少により減収となったが、中国での販売や欧米向け輸出が好調に推移し、前年並み。11月に販売開始した、高速・高画質のプロダクションカラー機 (Iridesse™ Production Press) の販売が好調に推移。
- ・ 営業利益は、主に構造改革費用を含む一時費用の影響により減益。

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q				9ヶ月			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	762	884	122 (+16.1%)	79 (+10.4%)	1,829	2,008	179 (+9.8%)	83 (+4.5%)
電子映像	177	246	69 (+39.0%)	54 (+30.8%)	487	683	196 (+40.3%)	160 (+33.0%)
光学デバイス	93	99	6 (+6.1%)	2 (+1.3%)	259	286	27 (+10.7%)	15 (+5.9%)
光学・電子映像	270	345	75 (+27.7%)	56 (+20.6%)	746	969	223 (+30.0%)	175 (+23.6%)
合計	1,032	1,229	197 (+19.1%)	135 (+13.1%)	2,575	2,977	402 (+15.6%)	258 (+10.0%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

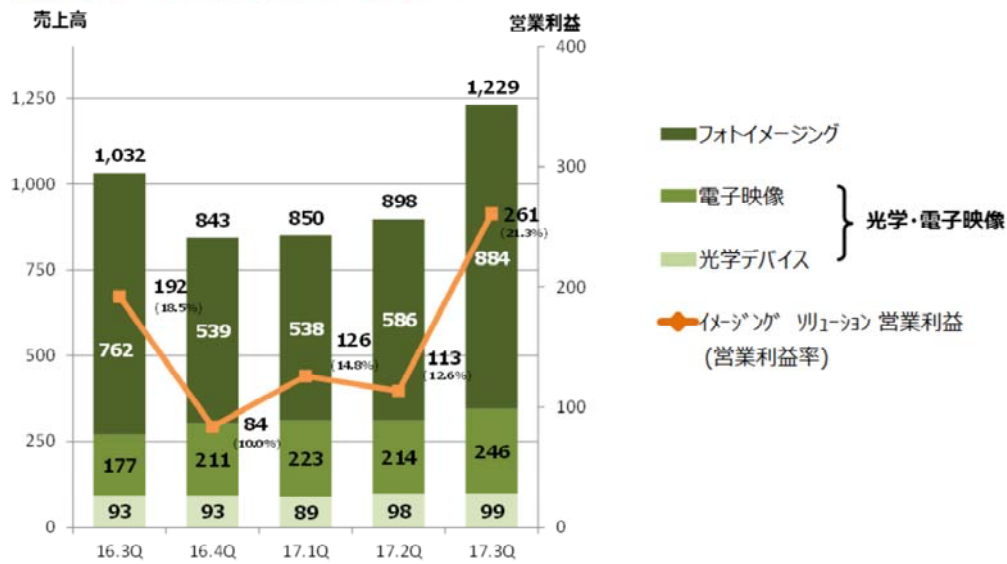
営業利益 [営業利益率]	3Q				9ヶ月			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
イメージング	192 [18.5%]	261 [21.3%]	69 (+36.1%)	42 (+21.9%)	284 [11.1%]	500 [16.8%]	216 (+76.1%)	155 (+54.6%)

20

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ インフォメーション ソリューション

売上高	3Q				9ヶ月			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	901	1,083	182 (+20.4%)	145 (+16.3%)	2,606	3,091	485 (+18.6%)	396 (+15.2%)
ディスプレイ材料	273	261	-12 (-4.4%)	-12 (-4.4%)	758	731	-27 (-3.6%)	-27 (-3.6%)
産業機械/電子材料 ファインミカル	289	434	145 (+50.3%)	132 (+45.9%)	807	1,284	477 (+59.3%)	435 (+54.0%)
高機能材料	562	695	133 (+23.7%)	120 (+21.5%)	1,565	2,015	450 (+28.9%)	408 (+26.1%)
記録メディア	128	83	-45 (-35.8%)	-48 (-37.7%)	345	304	-41 (-12.1%)	-55 (-16.0%)
グラフィックスシステム/インクジェット	610	611	1 (+0.0%)	-23 (-4.1%)	1,882	1,867	-15 (-0.9%)	-85 (-4.6%)
その他	3	3	0	0	26	6	-20	-20
合計	2,204	2,475	271 (+12.3%)	194 (+8.8%)	6,424	7,283	859 (+13.4%)	644 (+10.0%)

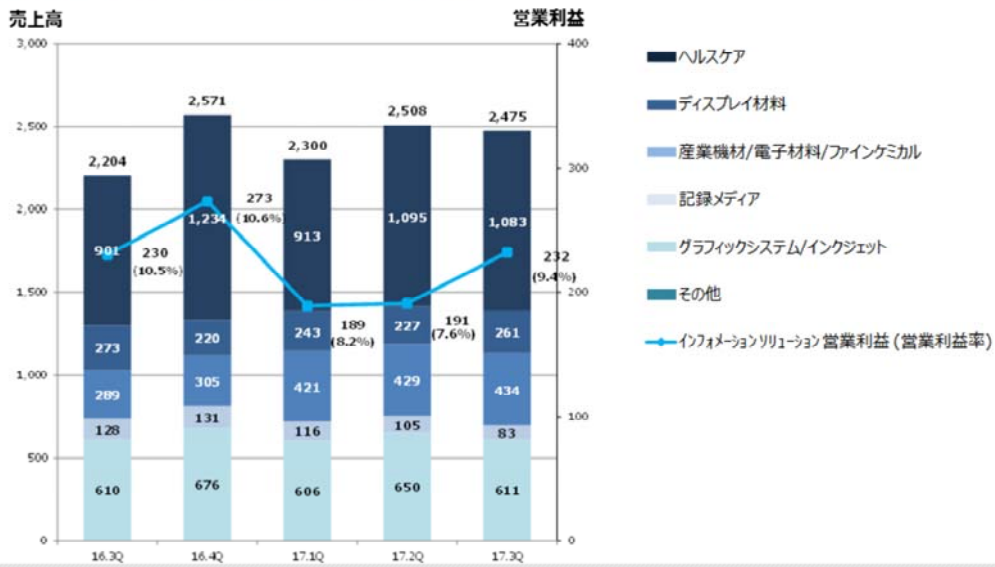
*セグメント別取引消去後

営業利益 【営業利益率】	3Q				9ヶ月			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	10 [1.2%]	55 [5.1%]	45 (5.1倍)	27 (3.4倍)	14 [0.6%]	74 [2.4%]	60 (5.0倍)	30 (3.0倍)
インフォメーション	230 [10.3%]	232 [9.4%]	2 (+0.8%)	-20 (-8.9%)	557 [8.7%]	612 [8.4%]	55 (+9.8%)	-5 (-1.0%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション (単位：億円)



<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	3Q				9ヶ月			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	385	343	-42 (-10.9%)	-58 (-15.2%)	1,196	1,120	-76 (-6.3%)	-112 (-9.3%)
オフィスプロダクト & プリンター	1,493	1,461	-32 (-2.1%)	-75 (-5.0%)	4,632	4,566	-66 (-1.4%)	-163 (-3.5%)
ポダクションサービス	322	309	-13 (-4.0%)	-23 (-7.2%)	999	981	-18 (-1.8%)	-40 (-4.0%)
ソリューション&サービス	591	629	38 (+6.4%)	10 (+1.6%)	1,876	1,913	37 (+2.0%)	-12 (-0.6%)
その他	145	115	-30 (-20.4%)	-50	417	377	-40 (-9.4%)	-61
合計	2,551	2,514	-37 (-1.4%)	-138 (-5.4%)	7,924	7,837	-87 (-1.1%)	-276 (-3.5%)

*セグメント別数値引当後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q				9ヶ月			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	161 [6.3%]	114 [4.5%]	-47 (-29.4%)	-78 (-48.6%)	566 [7.1%]	405 [5.2%]	-161 (-28.5%)	-168 (-29.7%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

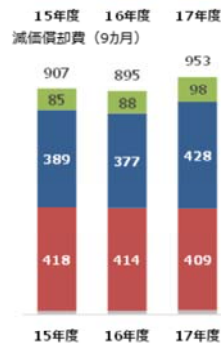
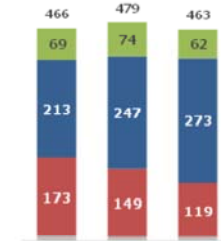
	2016年度 9ヶ月		2017年度 9ヶ月		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	40.8%	6,912	40.5%	7,335	423	(+6.1%)
米州	19.8%	3,355	19.6%	3,541	186	(+5.6%)
欧州	11.8%	1,999	12.9%	2,331	332	(+16.6%)
内、中国	11.9%	2,006	12.4%	2,242	236	(+11.7%)
アジア他	27.5%	4,657	27.0%	4,890	233	(+5.0%)
海外	59.2%	10,011	59.5%	10,762	751	(+7.5%)
合計	100.0%	16,923	100.0%	18,097	1,174	(+6.9%)

26

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

設備投資（9ヶ月）



(単位：億円)

年度	3Q			9ヶ月			通期		
	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2015	2016	2017 (予想)
イメーシング	20	22	24	69	74	62	102	103	
インフォメーション	83	71	102	213	247	273	393	401	
ドキュメント	73	46	37	173	149	119	233	200	
コーポレート	5	4	4	11	9	9	13	14	
設備投資 ※	181	143	167	466	479	463	741	718	800
イメーシング	28	30	33	85	88	98	129	111	
インフォメーション	133	130	146	389	377	428	520	491	
ドキュメント	149	139	153	418	414	409	581	553	
コーポレート	5	6	5	15	16	18	20	21	
減価償却費	315	305	337	907	895	953	1,250	1,176	1,100
有形固定資産の減価償却費 ※	166	148	166	473	437	494	658	589	

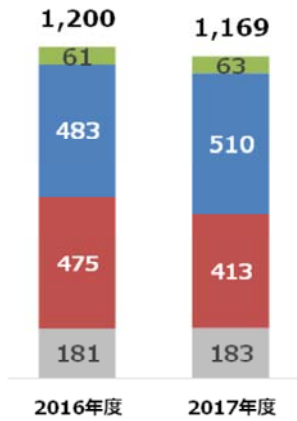
※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

- イメーシングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（9ヶ月）



- イメーシングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位：億円)

年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017 (予想)
イメーシング	18	23	61	63	82	
インフォメーション	163	167	483	510	662	
ドキュメント	149	133	475	413	615	
コーポレート	60	62	181	183	243	
研究開発費	390	385	1,200	1,169	1,602	1,660
<売上高比>	6.7%	6.2%	7.1%	6.5%	6.9%	6.7%
販売費及び一般管理費	1,465	1,640	4,465	4,830	5,981	
<売上高比>	25.3%	26.3%	26.4%	26.7%	25.8%	

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位：円)

	2016年度						2017年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
米ドル	108	102	110	107	114	108	111	111	113	112	111
ユーロ	122	114	118	118	121	119	122	130	133	129	129

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2016年度						2017年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期(予想)
銀	57	63	59	59	63	59	63	60	61	61	61

人員

(単位：人)

	2016.12末	2017.3末	2017.6末	2017.9末	2017.12末
連結	78,665	78,501	80,672	80,315	80,067

<当スライドは配付資料です>

2016年度3Q/9ヶ月決算における過年度修正

(単位：億円)

	修正前 2016年度3Q	2016年度3Q	対修正前 2016年度3Q	修正前 2016年度 9ヶ月累計	2016年度 9ヶ月累計	対修正前 2016年度 9ヶ月累計
売上高	5,820 100.0%	5,787 100.0%	-33	17,029 100.0%	16,923 100.0%	-106
営業利益	506 8.7%	509 8.8%	+3	1,141 6.7%	1,183 7.0%	+42
税金等調整前 当期純利益	656 11.3%	661 11.4%	+5	1,262 7.4%	1,305 7.7%	+43
当社株主帰属 当期純利益	434 7.5%	443 7.7%	+9	769 4.5%	787 4.7%	+18
為替 : 米ドル	110円	110円		107円	107円	
: ユーロ	118円	118円		118円	118円	

30

<当スライドは配付資料です>

2017年度 セグメント別業績予想 (2018年1月31日時点)

(単位：億円)

売上高	2016年度	2017年度 (前回予想)	2017年度	対前回予想	対前年度
イメージング	3,418	3,700	3,800	100	382 (+11.2%)
ヘルスケア	3,840	4,450	4,450	0	610 (+15.9%)
インフォメーション	8,995	10,100	10,100	0	1,105 (+12.3%)
ドキュメント	10,809	10,800	10,700	-100	-109 (-1.0%)
合計	23,222	24,600	24,600	0	1,378 (+5.9%)

*セグメント間取引消去後

営業利益	2016年度	2017年度 (前回予想)	2017年度	対前回予想	対前年度
イメージング	368	490	540	50	172 (+46.6%)
ヘルスケア	124	200	190	-10	66 (+53.2%)
インフォメーション	830	930	880	-50	50 (+6.1%)
ドキュメント	827	740	190	-550	-637 (-77.0%)
全社/連結調整	-302	-310	-310	0	-8
合計	1,723	1,850	1,300	-550	-423 (-24.5%)

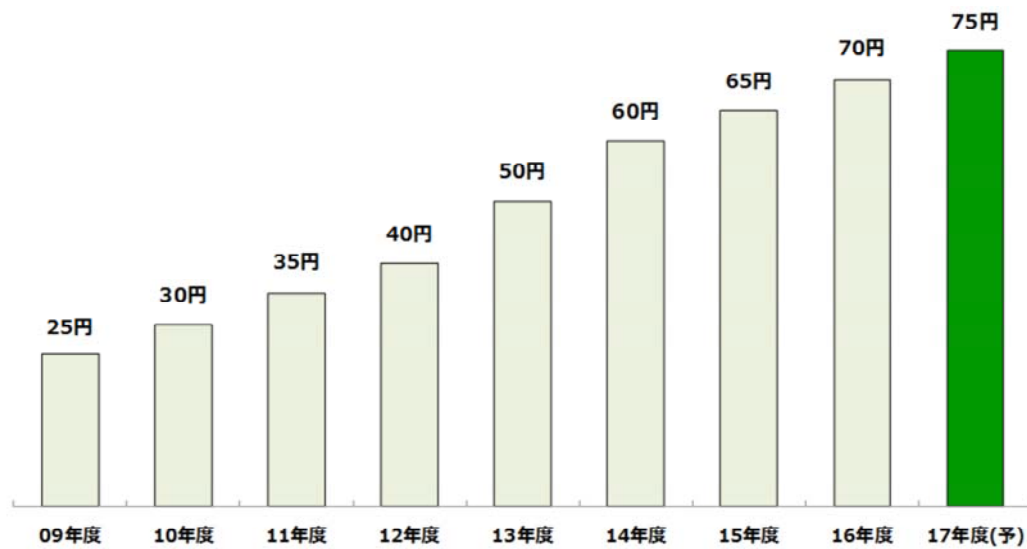
31

<当スライドは配付資料です>

株主還元

■ 配当金

2017年度の配当金は、8期連続増配となる対前年5円増配の75円/株を予定



<当スライドは配付資料です>

パイプライン (2018年1月31日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
			米国	Ph III 実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 終了
			日本	Ph II 終了
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	Ph III 実施中
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬	注射	日本	Ph III 実施中
FF-10501	再発・難治性骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I 終了
			米国	Ph II 実施中
FF-10502	進行・再発膵がん/卵巣がん治療薬	注射	米国	Ph I 実施中
			欧/日	Ph I 準備中
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I 実施中
			日	Ph I 準備中
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II 終了
FF-10101	再発・難治性急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I 実施中
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I 実施中
FF-10102	自己免疫疾患治療薬	経口	米/欧/日	非臨床試験実施中
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピリボソーム)	注射	米国	Ph I 準備中

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクス (FKB) のFKB327 (アダリムマブバイオシミラー) は、欧州申請中。FKBとアストラゼネカ社のJ.V.のFKB238 (パバシマブバイオシミラー) は、米国、欧州、その他でPh III実施中。

33

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フイルムホールディングス 統合報告書2017

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_library/integrated_reports/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2016年 5月 ドキュメント事業説明会
- 2016年 12月 医薬品・再生医療事業説明会
- 2017年 3月 エレクトロニクスマテリアルズ（EM）事業説明会

富士フイルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>